

令和4年度

(令和4年4月1日より令和5年3月31日まで)

# 事業報告

公益財団法人 高松宮妃癌研究基金

東京都港区高輪一丁目14番15号102

# 目次

第1章	概況	1
第2章	事業の状況	
1.	研究助成金の贈呈	1
2.	高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈	2
3-1.	高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催	2
3-2.	国際シンポジウム開催の助成	2
4.	国際講演会の開催	3
5.	AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成	3
6.	機関誌「CANCER」の発刊	4
第3章	管理事項	
1.	会議等に関する事項	
(1)	令和4年度第1回理事会 (通常)	5
(2)	令和4年度第1回評議員会 (定時)	5
(3)	令和4年度第2回理事会 (臨時)	5
(4)	令和4年度第3回理事会 (臨時)	6
(5)	令和4年度第4回理事会 (臨時)	6
(6)	令和4年度第2回評議員会 (臨時)	6
(7)	令和4年度第1回学術委員会	7
(8)	令和4年度第5回理事会 (臨時)	8
(9)	令和4年度第6回理事会 (通常)	8
(10)	令和4年度第3回評議員会 (臨時)	9
2.	内閣府公益認定等委員会への報告、申請等に関する事項	9
3.	内閣府からの連絡事項等	9
第4章	受取寄附金に関する事項	10
第5章	附属明細書	
表1	令和4年度研究助成金受領者名簿	11
表2	令和4年度高松宮妃癌研究基金学術賞受賞者名簿	14

## 第1章 概況

当事業年度は、一昨年度から継続する新型コロナウイルスの感染状況が期初から3ヵ月に亘りやや収束するかに見えたものの、7月に入って第7波が到来、10月以降は年明けまで続く第8波に見舞われた。この事態に対し、海外研究者を招聘して行う事業計画の変更で対応した。

具体的には、当財団設立の趣旨である故高松宮妃殿下の悲願「がん撲滅」を実現するため実施してきている公益目的事業のうち、海外から講演者を招聘し、多数のがん研究者が一堂に会する国際シンポジウムの開催中止を決断した。延期を繰り返したことから、3年ぶりの開催を目指して鋭意準備を進めてきたが、8月に開催の中止を決断した。内容を再検討の上、改めて次年度に開催する。国際講演会の開催も3年連続の延期を決定した。主要公益目的事業であるがん研究者への研究助成金の贈呈と高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈は計画通り実施した。これらの榮譽を称える学術賞等贈呈式は、新型コロナウイルス感染防止に最大限の注意を払い、出席者を限定して開催した。

財団事務局の業務に関しては、テレワーク勤務体制の徹底を図り、業務連絡会議をZOOMシステムで行うなど、コロナ禍でも管理、運営面での業務への影響を最小限に抑える対応を継続した。

当事業年度の収支の経常収益については、株式配当及び債券利息等収入が合計171,882千円で、前事業年度比1.0%増（前年度170,142千円）であった。個人からの大口の寄附（10,000千円）もあり、公益目的事業への使用が指定された指定正味財産増減の部の受取寄附金は37,976千円（前年度56,720千円）と期初予算の26,000千円を上回る実績を計上した。当事業年度は、国際シンポジウムの開催中止と国際講演会の開催延期等による事業費の減少に伴い、公益目的事業収支の赤字が少額となったため、指定正味財産に計上する株式配当金からの経常収益への振替を一部のみとした。その結果、当事業年度の経常収益合計は、前事業年度比1.0%増の171,893千円（前年度170,156千円）となった。

経常費用については、研究助成金の贈呈及び学術賞の贈呈等を実施した事業に係る費用を含め、経常費用合計は前事業年度比1.8%減の165,401千円（前年度168,417千円）となった。

以上の結果、当事業年度の一般正味財産の当期増減額は、6,491千円の黒字（前年度1,739千円の黒字）となった。

## 第2章 事業の状況

### 1. 研究助成金の贈呈（定款第4条第1項第1号）（公益目的事業1）

当事業年度の応募件数は163件であり、この中から38件が採択された。受領者の氏名、研究題目等は、第5章・附属明細書・表1に記載のとおりである。1件当たり200万円を贈呈した。

選考は令和4年12月1日（木）開催の学術委員会において行なわれ、12月14日（水）、理事会の承認を得た。

贈呈式は、令和5年2月22日（水）、パレスホテル東京（東京都千代田区）において挙行了。

## 2. 高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈（定款第4条第1項第2号）（公益目的事業2）

当事業年度の推薦件数は8件8名であり、この中から学術委員会における基礎研究、臨床研究から各1件の原則に従った選考の結果、2件2名が決定された。1件当たり本賞の楯と副賞500万円を贈呈した。

受賞者の氏名、研究業績等は、第5章・附属明細書・表2に記載のとおりである。

学術委員会における受賞者の選考、理事会の承認及び贈呈式は、上記1.の研究助成金の贈呈と併せて行われた。

### 3-1. 高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催

（定款第4条第1項第3号、第4号）（公益目的事業3）

第51回高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムを次のとおり開催する予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染の再拡大を踏まえ、開催中止を決定した。内容を再検討の上、改めて次年度に開催する。

#### (1) 国際シンポジウム

主 題：がんの発生・進展における環境インパクトの新知見：原因究明から切り拓く最適予防

会 期：令和4年11月8日(火)～10日(木)

会 場：パレスホテル東京（東京都千代田区）

組織委員長：津田 洋幸 博士（名古屋市立大学特任教授）

組織委員：Allan Balmain 博士

（カリフォルニア大学サンフランシスコ校ヘレン・ディラー・ファミリー総合がんセンター所長）

石川 冬木 博士（京都大学大学院教授）

中釜 齊 博士（国立がん研究センター理事長）

招待演者：海外から20名及び国内から11名を予定

討 論 者：約200名

#### (2) 中原記念講演賞

本シンポジウムの特別セッションにおいて、中原記念講演を実施。

当年度の講演者は、Arthur P. Grollman 博士（ストーニーブルック大学薬理学部特別教授）。

### 3-2. 国際シンポジウム開催の助成

（定款第4条第1項第3号、第4号）（公益目的事業3）

下記の学会が実施した国際シンポジウムに対し助成を行った。

第81回日本癌学会学術総会における JCA-AACR Joint Symposia

会 期：令和4年9月29日（木）～10月1日（土）

会 場：パシフィコ横浜

助成額：200万円

#### 4. 国際講演会の開催（定款第4条第1項第3号、第4号）（公益目的事業4）

がんに関する講演会及び研究会開催の一つとして、下記の研究者を候補とする国際講演会開催を計画した。しかし、新型コロナウイルス感染の再拡大を踏まえ、次年度への延期を決定した。

##### 第1候補

Tyler Jacks 博士

マサチューセッツ工科大学コッホ統合がん研究所所長

##### 第2候補

Aviv Regev 博士

ジェネンテック社副社長（アメリカ）

##### 第3候補

Joan Massagué 博士

メモリアル・スローン・ケタリングがんセンター

スローン・ケタリング研究所所長

#### 5. AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成

（定款第4条第1項第3号、第4号）（公益目的事業5）

米国の新型コロナウイルス感染への対応方針に基づき、会場での通常開催となった2022 米国がん学会（AACR）年会において、第16回 AACR 高松宮妃記念講演が実施された。講演者の選定は、ビデオ会議方式による選考委員会において行われ、記念講演は次のとおり実施された。なお、海外渡航に抵抗のある日本の状況から、財団代表者の当該講演会への出席は見合わせた。

講演者：René Bernards 博士

オランダがん研究所 教授

演題：がん治療への型破りなアプローチ

講演日：令和4年4月11日（月）

会場：アメリカ・ルイジアナ州ニューオーリンズ

アーネストN.モリアルコンベンションセンター

Bernards 博士に対し記念の楯及び副賞1万ドルを贈呈した。

## 6. 機関誌「CANCER」の発刊（定款第4条第1項第5号）

令和4年度（第53号）機関誌「CANCER」を次のとおり発刊した。

発行日：令和4年7月25日（月）

発行部数：700部

また、令和3年11月16日（火）に公益目的事業1の一環として開催された杉村隆先生追悼記念講演会の講演内容を収録した機関誌「CANCER」杉村隆先生追悼記念講演会特別号（第53号別冊）を次のとおり発刊した。

発行日：令和4年12月18日（日）

発行部数：500部

## 第3章 管理事項

### 1. 会議等に関する事項

#### (1) 令和4年度第1回理事会（通常）

開催日：令和4年6月1日（水）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：理事8名（総数9名）・監事2名（総数2名）・顧問3名（総数4名）

議案：① 令和3年度事業報告及び決算について

② 令和4年度第1回評議員会（定時）の開催について

③ 次期役員候補者について

④ 次期評議員候補者について

審議結果：提案された4件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

報告事項：理事長より、定款第33条第4項に基づき、職務執行状況につき報告が行われた。

#### (2) 令和4年度第1回評議員会（定時）

開催日：令和4年6月16日（木）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：評議員10名（総数13名）

理事長

議案：① 任期満了に伴う理事及び監事の選任について

② 任期満了に伴う評議員の選任について

審議結果：提案された2件の議案につき、審議の結果、異議なく承認可決された。

報告事項：理事長より、令和3年度事業報告及び決算について報告が行われ、評議員全員から承認を得た。

#### (3) 令和4年度第2回理事会（臨時）

開催日：令和4年6月22日（水）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：理事8名(総数8名)・監事2名(総数2名)

議案：① 理事長及び常務理事の選定について  
② 顧問の選任について

審議結果：提案された2件の議案につき、審議の結果、異議なく承認可決された。

(4) 令和4年度第3回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：令和4年度第2回評議員会（臨時）の開催について  
(令和4年10月3日(月)提案書発送)

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、書面により、理事8名全員から同意の意思表示を、また監事2名全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第46条第2項の規定に基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：令和4年10月11日(火)

(5) 令和4年度第4回理事会（臨時）

開催日：令和4年11月24日(木)

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：理事6名(総数8名)・監事2名(総数2名)・顧問0名(総数3名)

議案：① 令和4年度事業計画の変更について  
② 令和4年度収支予算の変更について  
③ 令和5年度の主要事業について  
④ 令和4年度第3回評議員会（臨時）の開催について

審議結果：提案された4件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

報告事項：理事長より、定款第33条第4項に基づき、職務執行状況につき報告が行われた。

(6) 令和4年度第2回評議員会（臨時）

開催日：令和4年11月24日(木)



開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内 1-1-1）

出席者：評議員 11 名（総数 14 名）

理事長

議案：① 令和 4 年度事業計画の変更について

② 令和 4 年度収支予算の変更について

審議結果：提案された 2 件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

(7) 令和 4 年度第 1 回学術委員会

開催日：令和 4 年 12 月 1 日（木）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内 1-1-1）

出席者：学術委員 9 名（総数 10 名）

理事長

議案：① 令和 4 年度研究助成金受領候補者の審査、選考について

② 令和 4 年度学術賞候補者の審査、選考について

③ 令和 5 年度（第 40 回）国際講演会の実施について

④ 令和 5 年度国際シンポジウム助成について

審議結果：① 163 名の申請者の内、第 5 章・附属明細書・表 1 に記載の 38 名が選考された。

② 8 件 8 名の候補者の内、第 5 章・附属明細書・表 2 に記載の 2 名が選考された。

③ 中釜委員より、新型コロナウイルスの感染の動向を見ながら慎重に進めていく旨、報告があった。

第 1 候補

Tyler Jacks 博士

マサチューセッツ工科大学コッホ統合がん研究所所長（アメリカ）

第 2 候補

Aviv Regev 博士

ジェネンテック社副社長（アメリカ）

### 第3候補

Joan Massagué 博士

メモリアル・スローン・ケタリングがんセンター

スローン・ケタリング研究所所長（アメリカ）

- ④ 助成対象を下記の学術総会で開催される JCA（日本癌学会）－ AACR（アメリカがん学会）ジョイントシンポジウムとすることとなった。

シンポジウムを開催する母体となる学術総会

名 称：第82回日本癌学会学術総会

テ ー マ：ようこそ新しい時代へ Welcome to the New Era

学 術 会 長：間野 博行 博士（国立がん研究センター研究所所長）

日 程：令和5年9月21日（木）－9月23日（土）

会 場：パシフィコ横浜

### (8) 令和4年度第5回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：① 令和4年度研究助成金受領者の決定について

② 令和4年度学術賞受賞者の決定について

③ 令和5年度（第40回）国際講演会の実施について

④ 令和5年度国際シンポジウム助成について

（令和4年12月6日（火）提案書発送）

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、書面により、理事8名全員から同意の意思表示を、また監事2名全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第46条第2項の規定に基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：令和4年12月14日（水）

### (9) 令和4年度第6回理事会（通常）

開催日：令和5年3月9日（木）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：理事8名(総数8名)・監事2名(総数2名)・顧問1名(総数3名)

議案：① 令和5年度事業計画について

② 令和5年度収支予算について

③ 令和5年度資金調達及び設備投資の見込みについて

審議結果：提案された3件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

#### (10) 令和4年度第3回評議員会（臨時）

開催日：令和5年3月9日（木）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：評議員11名（総数13名）

理事長

議案：① 令和5年度事業計画について

② 令和5年度収支予算について

③ 令和5年度資金調達及び設備投資の見込みについて

審議結果：提案された3件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

## 2. 内閣府公益認定等委員会への報告、申請等に関する事項

(1) 令和3年度事業報告等の提出 令和4年6月29日（水）

(2) 変更の届出(評議員、理事及び監事の改選) 令和4年7月29日（金）

(3) 令和5年度事業計画書等の提出 令和5年3月29日（水）

(4) 変更の届出(評議員1名の逝去による減員) 令和5年3月30日（木）

## 3. 内閣府からの連絡事項等

内閣府から公益法人宛には、不定期にメールにより情報連絡が行われる他、原則隔週水曜日に「内閣府 公益法人メールマガジン」が発行され、公益認定等委員会からの伝達事項、公益法人への依頼事項、公益法人の現況と運営へのアドバイス、テーマ別セミナーや相談会のお知らせ等が記載されている。

この情報連絡に関し、令和4年度に対応した事項はない。

## 第4章 受取寄附金に関する事項

当財団の公益目的事業は、経常収益を構成する基本財産運用益、特定資産運用益、受取寄附金、雑収益で運営されている。受取寄附金は、高松宮妃殿下が関係された様々な法人から毎年お届けいただく寄附金、妃殿下と世代を超えて何らかのご縁の続く多くの皆様からの継続的なご寄附、妃殿下の「がん撲滅」の悲願に賛同された日本中の皆様からのご寄附などである。例年、法人、個人の寄附金は合計100件を超え、経常収益の重要な位置を占める。

当事業年度に受け入れた寄附金は以下のとおりである。

- ・法人                    42件   18,876,396円
- ・個人                    64件   19,099,261円
- ・法人個人合計   106件   37,975,657円

第1章の概況に記載のとおり、当年度は、個人の方からの大口の寄附（10,000千円）があったことから寄附金合計は、当初予算の26,000千円を大きく上回った。

## 第5章 附属明細書

表1 令和4年度研究助成金受領者名簿

以下の受領者に対し、1件当たり200万円の研究助成金を贈呈した。

代表研究者氏名	所属・職	研究題目
東 浩 太 郎	東京大学大学院 医学系研究科 加齢医学講座 講師	治療抵抗性乳癌の新規治療法の開発を目的としたTRIMファミリー基質蛋白質の同定とその修飾・安定化メカニズムの解明
石 川 俊 平	東京大学大学院 医学系研究科 衛生学分野 教授	ゲノム病理情報の定量的統合によるがん多様性の解明
梅 本 晃 正	熊本大学国際先端医学研究機構 造血幹細胞工学研究室 特任准教授	クロマチン動態に基づいた造血幹細胞の運命制御機構と骨髄抑制回復療法の確立
江 幡 正 悟	和歌山県立医科大学 医学部 病理学講座 教授	粘液型脂肪肉腫の転移メカニズムの解明
大 木 理 恵 子	国立がん研究センター研究所 基礎腫瘍学ユニット 独立ユニット長	日本人が発症する非機能性の膵神経内分泌腫瘍の悪性化に伴った代謝変換メカニズムの解明と新規治療法開発 ～膵神経内分泌腫瘍におけるがん抑制遺伝子p53経路の役割に焦点を当てて～
大 谷 理 浩	岡山大学病院 脳神経外科 助教	一細胞時空間解析による神経膠腫の構造的脆弱性を標的とした新規免疫法の開発
越 智 俊 元	愛媛大学大学院 医学系研究科 血液・免疫・ 感染症内科学講座 講師	キメラ抗原受容体T細胞における新たな細胞内活性化シグナルの解明とがん治療への応用
川 上 正 敬	東京大学医学部附属病院 呼吸器内科 特任講師	癌細胞の過剰中心体収束の阻害による癌治療戦略の新規標的分子の探索
河 津 正 人	千葉県がんセンター研究所 細胞治療開発研究部 部長	ゲノム異常および代謝異常に伴う腫瘍特異的転写バリエーションの探索およびその腫瘍免疫への影響の解明
鯉 沼 代 造	東京大学大学院 医学系研究科 人体病理学・ 病理診断学分野 准教授	膵・消化管神経内分泌腫瘍の進展を制御する転写因子の同定とエピゲノム調節機構の関与
小 林 恭	京都大学大学院 医学研究科泌尿器科学 教授	膀胱癌の多様性の分子生物学的理解に立脚した疾患モデルの構築と個別化医療への応用
紺 野 宏 記	金沢大学 ナノ生命科学研究所 准教授	高速原子間力顕微鏡を用いた子宮頸がん主要因タンパク質複合体の構造動態解明
今 野 雅 允	産業技術総合研究所 細胞分子工学研究部門 生物データサイエンス研究 グループ 主任研究員	膵臓がん特異的RNA修飾の機能解析と新規診断マーカーの開発

代表研究者氏名	所 属 ・ 職	研 究 題 目
齋藤 康太	秋田大学大学院 医学系研究科情報制御学・実験 治療学講座 教授	内分泌経路に着目したがん微小環境の解析
塩川 大介	国立がん研究センター研究所 分子薬理研究分野 ユニット長	大腸がん治療抵抗性細胞に於ける薬剤耐性メカニズムの解明
杉本 幸太郎	福島県立医科大学 医学部 基礎病理学講座 講師	卵巣漿液性癌の革新的バイオマーカーSpondin-1が制御するがん悪性形質促進機構の解明
関戸 好孝	愛知県がんセンター研究所 分子腫瘍学分野 副所長 兼 分野長	悪性中皮腫細胞におけるフェロトーシス細胞死の易誘導機構の解明と治療標的の同定
千場 隆	熊本大学 国際先端医学研究機構 客員講師	腫瘍微小環境におけるJNKシグナルを標的とした新規治療戦略の開発
園下 将大	北海道大学 遺伝子病制御研究所 がん制御学分野 教授	個体表現型スクリーニングによる新規膵がん治療法の創出
高橋 暁子	(公財)がん研究会がん研究所 細胞老化研究部 部長	がん微小環境における老化細胞由来細胞外小胞の機能解析
田村 彰広	神戸大学大学院 医学研究科内科系講座 小児科学分野こども急性疾患 学部門 特命講師	抗SIRPα抗体を用いた貪食機構制御による難治性神経芽腫の新規治療開発
富田 耕造	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻 RNA 生物学分野 教授	がん抑制機能を持つマイクロRNAの発現制御機構の構造生物学的解析
中奥 敬史	国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野 主任研究員	大規模ゲノム情報に基づく機能獲得型変異クラスターの同定法の開発と治療展開
中野 裕康	東邦大学 医学部 生化学講座 教授	IL-11+ cancer-associated fibroblasts(CAFs)のheterogeneityの解析と発がんにおける役割の解明
西村 耕太郎	(公財)神戸医療産業都市推進 機構 先端医療研究センター 血液・腫瘍研究部 主任研究員	p53変異特異的酸化ストレスシグナルを標的とする新規治療応用
仁平 直江	聖マリアンナ医科大学大学院 応用分子腫瘍学 特任講師	乳癌における免疫チェックポイント分子PD-L1の機能解明と治療への展開
早河 翼	東京大学医学部附属病院 消化器内科 特任講師	糖鎖変化とゴルジ体ストレスによる胃癌増殖機構の解明と新規レクチン薬物複合体の開発

代表研究者氏名	所 属 ・ 職	研 究 題 目
原 田 浩	京都大学大学院 生命科学研究所がん細胞生物学 教授	腫瘍内低酸素を指標に“がんの早期発見と予後予測”を可能にする血漿バイオマーカーの開発
菱 田 友 昭	和歌山県立医科大学 薬学部 生物化学研究室 准教授	未分化胃がんにおける新たな分子標的としてのTOP2Aの役割の検証
藤 田 幸	島根大学 医学部医学科 解剖学講座 (発生生物学) 教授	クロマチン高次構造制御の破綻による脳腫瘍形成の分子メカニズム解明
藤 原 英 晃	岡山大学病院 血液・腫瘍内科 助教	マルチオミクス解析を用いた細胞死解析に基づく免疫細胞療法の効果増強・副作用低減法の開発
本 宮 綱 記	金沢大学 がん進展制御研究所 分子病態研究分野 特任助教	「見えざる転移」を駆逐するための極小血管性ニッチの機能解析
松 尾 恵 太 郎	愛知県がんセンター がん予防研究分野 分野長	飲酒関連がんにおける発癌メカニズムの異質性の解明に基づく個別化予防法を志向した分子疫学研究
水 上 裕 輔	旭川医科大学 内科学講座 病態代謝・消化器・血液腫瘍制御内科学分野 教授	膵癌初期発生におけるクローン進化多様性の解明
山 本 昌 平	東京大学大学院 薬学系研究科 薬科学専攻 生物薬科学講座 助教	細胞分裂期の細胞膜を標的とした光誘導型がん増殖抑制法の開発
山 本 雄 介	国立がん研究センター研究所 病態情報学ユニット ユニット長	がん特異的なエクソソーム分泌阻害による新規治療戦略の開発
吉 田 健 一	国立がん研究センター研究所 がん進展研究分野 分野長	前がん病変の空間的ゲノム解析による肺腺がん多段階発がん機構の解明
脇 田 将 裕	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 老化生物学 特任助教	次世代型Senotherapyの確立とがん治療への応用

(五十音順 敬称略)

表2 令和4年度高松宮妃癌研究基金学術賞受賞者名簿

以下の受賞者に対し、1件当たり500万円の賞金を贈呈した。

受賞者氏名	所属・職	研究業績
内 富 庸 介	国立がん研究センター がん対策研究所 研究統括	がん患者のストレスと支持・緩和・ 心のケア法の開発
西 川 博 嘉	国立がん研究センター 研究所 腫瘍免疫研究分野 分野長	がん微小環境における免疫抑制機構の 解明と治療への展開

(五十音順 敬称略)